## 第１章　人口ビジョン

人口の現状と将来の姿を示し、人口問題に関し、市民との認識の共有を目指すとともに、今後、取り組むべき将来の方向と人口の将来展望を示します。

### 第１　将来人口推計

宮古市の総人口は、国勢調査において昭和 25 年（75,744 人）からみると、昭和 30～35 年に人口が増加しますが、昭和 40 年以降は、年々人口が減少しており、住民基本台帳人口では、令和元年には 52,217 人（対昭和 25 年比 0.69）となっています。

平成 25 年に国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）に準拠した宮古市の 2040 年の推計人口は、35,901 人と予測され、その後、平成 27 年国勢調査の結果を反映した社人研の平成 30 年推計準拠においては、37,439 人、平成 25 年の推計と比較して、1,538 人減少幅が小さくなると予測されています。

一方、平成 27 年度に策定した「宮古市まち・ひと・しごと創生総合戦略（計画期間：平成 27 年度から令和元年度）」（以下「前総合戦略」という。）では、合計特殊出生率を 2040 年までに国が掲げた人口置換水準である 2.07 まで段階的に引き上げることとしており、2020 年までに 1.74、2030 年までに 1.97 とすることを目標とし、また、社会増減については、2020 年までに移動均衡（社会増減ゼロ）を目指し、2040 年の推計人口を 43,264 人としています。

### 第２　目指すべき将来の方向

人口問題の解決に向けた取り組みを推進するためには、市民や行政、企業・団体など宮古市全体が同じ方向を向き、人口問題に対して取り組む必要があります。

また、人口減少に歯止めをかけるには、長い時間を要し、長期的かつ継続的な取り組みが必要です。

このことから本計画においては、前総合戦略の考え方を引き継ぎ、目指すべき将来の方向を次のとおり掲げます。

【目指すべき将来の方向】

## 目標　だれもが、いつまでも、住み続けたいまち、みやこ

### Ⅰ．ずっと、住みよいまち

「暮らしやすさ」と「豊かさ」に着目し、地域で生活している人たちが住み続けたいと思えるような『宮古市』にします。

### Ⅱ．いつでも、帰ってこられるまち

地域の既存資源を充分に活用し「宮古らしさ」の創出に努め、次代を担う若い世代や子どもたちにも選択されるまちづくり、すなわち、進学や就職などで一度は転出した本市の出身者が、再びふるさとへ帰りたいと思えるような『宮古市』にします。

### Ⅲ．行ってみて、住んでみたくなるまち

現代は、そこに住まなければならないという宿命の定住ではなく、自己の生き方によって地域を選択し定住する「選択的定住化の時代」です。

他地域の人たちにも住んでみたいと思われるような『宮古市』にします。

まち・ひと・しごと創生
総合戦略

重点的な取り組み

基本姿勢１　安定した雇用環境の確保・充実
基本姿勢２　子育て世代・若い世代の生活支援
基本姿勢３　いつまでも住み、暮らせるまちづくり
基本姿勢４　各地域にあった施策の展開
基本姿勢５　人口減少に対する意識の共有

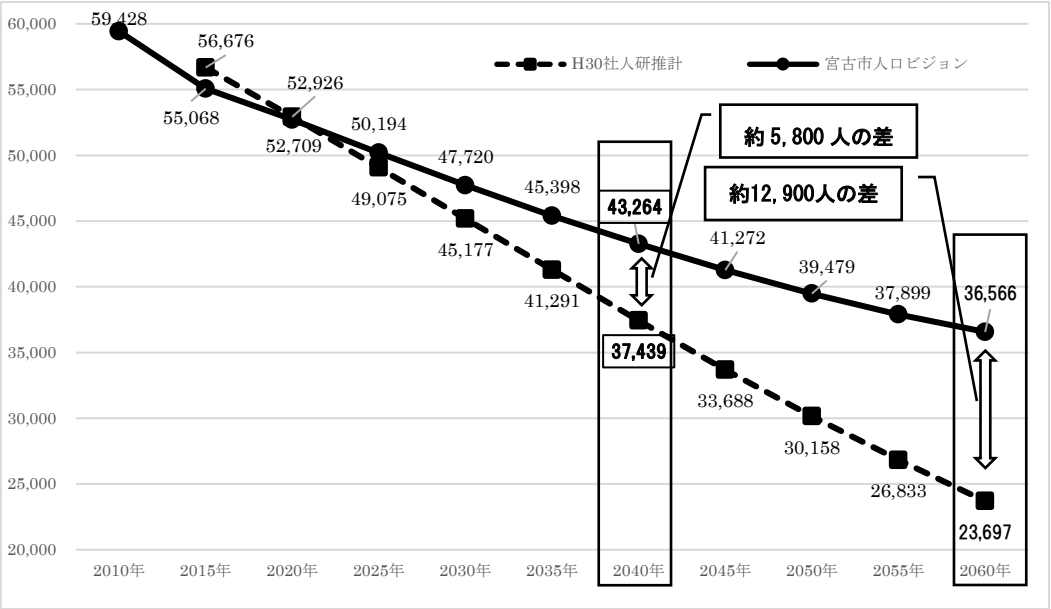
安定した仕事を持って、子どもを幸せに育てられるまちづくり

**定住化の促進**
**（人口減少速度の抑制）**

## 第３　人口の将来展望

前総合戦略において定めた人口ビジョンでは、「2040 年４万３千人、2060 年３万６千人の人口を確保」することを掲げています。

平成 30 年に社人研の推計に準拠した将来人口推計においては、推計値が上方修正されているものの、人口ビジョンの目標を達成していないことから、本計画においては、引き続き「2040 年４万３千人、2060 年３万６千人の人口を確保」を目指します。




宮古市の総人口の将来展望